

## 5 医師配置検討委員会の設置

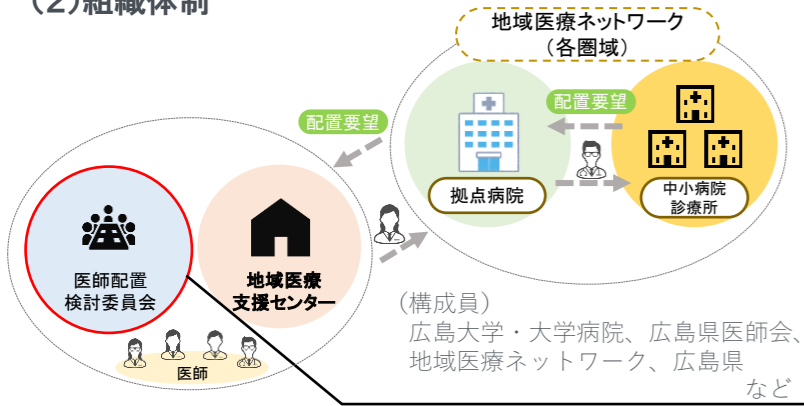
県内医師の適正配置に向けた配置・循環の仕組みを構築し、中山間地域等の医療提供体制を確保することを目的として、「医師配置検討委員会」を設置。

### (1)委員会の役割

- ・ 県内医師の配置にかかる情報共有
- ・ 地域枠医師等の配置調整及びキャリア支援のあり方等の検討

など

### (2)組織体制



## 6 大学との連携強化

高度医療・人材育成拠点構想や持続可能な医療提供体制の実現に向け、広島大学との連携を強化。

### 連携事項

- (1)地域のニーズに即した最高水準の医療を提供
- (2)質の高い医療人材の育成のための環境の整備
- (3)高い水準の医療を提供するための臨床研究の充実
- (4)地域のニーズに即した医療提供体制の維持・確保



「広島県と国立大学法人広島大学の高度医療・人材育成拠点の整備に関する協定」の協定締結式 (令和7年7月7日)

## 7 地方独立行政法人広島県立病院機構

### (1)発足

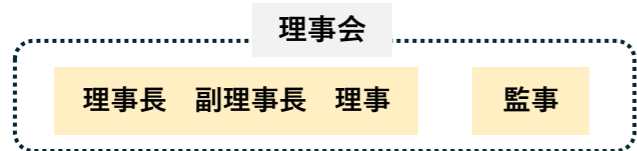
令和7年4月1日 地方行政独立行政法人広島県立病院機構を設置

### (2)組織



理事長 栗井 和夫

広島県の医療政策に基づき、必要な医療を提供するとともに、中山間地域を含む県内全域の地域医療の充実に努め、医療水準の向上を目指します。



### (3)ミッション

広島県内にひろく最高の医療・人材を持続的に提供し、県民から信頼され、職員が誇りを持って働く病院を実現します

「広島県内のあらゆる地域へ最高水準の医療と優れた人材を持続的に提供することが、我々の創造する「付加価値」です。県民の皆様から「新病院ができて良かった」と感じて頂くと同時に職員も誇りを持って働ける、「患者満足」と「従業員満足」の両方を実現する経営を目指します。

### (4)地域医療機関との医療機能連携協定

- ・ 広島県立病院機構と20医療機関が医療機能連携協定を締結 (令和8年2月現在)
- ・ 連携項目は、各協定締結医療機関が選択
- ・ 今後も、趣旨に賛同する医療機関と調整し、適宜、連携協定医療機関を増やしていく。

### 医療機能連携協定の連携項目

- ・ 安定的な地域医療の提供
- ・ 医療機能の分担と患者の紹介・逆紹介
- ・ 人材の確保・育成
- ・ 医療機器等購入時の共同交渉
- ・ 委託業務の共同化

## 高度医療・人材育成拠点(新病院)整備事業進捗状況



## 1 新病院の役割

### (1)高度急性期医療機能



高度急性期・急性期を担う基幹病院として、最先端かつ多角的な医療技術を用いて、全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供します。

### (2)医療人材育成機能



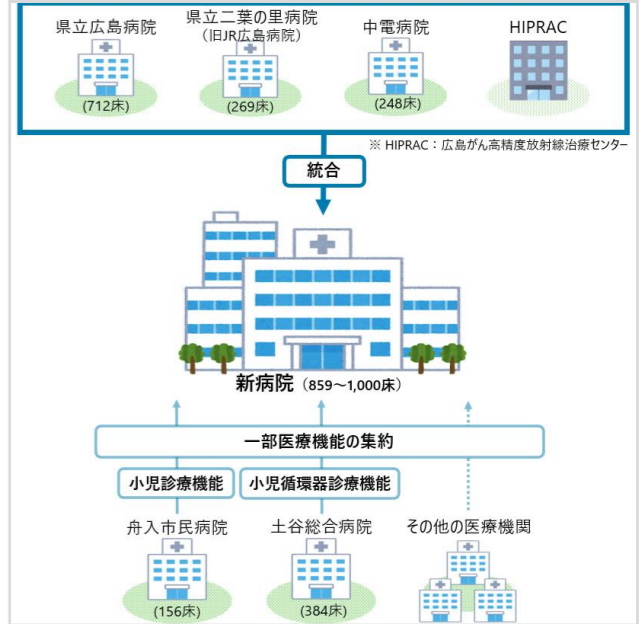
大学との連携により、高度急性期医療の提供に必要な医療スタッフを確保するとともに、地域の医療の質を強化するため、豊富な症例や充実した指導体制など魅力ある研修体制を整備し、若手医師をはじめとする医療人材を惹きつけ、育成します。

### (3)広島県の医療提供体制を支える機能



広島大学等と連携した中山間地域の医療機関に対する医療人材の派遣・循環の仕組みを構築することにより、中山間地域の医療提供体制の維持に努めます。

### 医療再編のイメージ図



## 2 進捗



## 3 広島県の医療課題

### (1)医師・医療従事者の不足と偏在

- ・ 高齢化で医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少。特に症例集積や体制が充実している首都圏などの大都市圏へ医療人材が集中し、県内若手医師等の減少が進行している。
- ・ 県内では、地域間・診療科間の医師偏在が進んでおり、特に中山間地域においては、基幹病院の人材不足によりサービス縮小を余儀なくされるなど、都市部に比べて医療基盤の維持が困難になることが予想される。

### (2)救急医療・高度医療提供体制の課題

- ・ 広島都市圏において、人手不足などを理由として「搬送困難な事例※」が増加しており、医療資源が分散した非効率な体制の解消が求められている。
- ・ がん、生殖医療、ゲノム医療、ロボット手術などの新たな高度・先進医療技術への対応が求められている。

※救急搬送において医療機関への交渉回数4回以上や現場滞在時間が30分以上の事例

## 4 計画概要

### (1) 病床計画

- 開院時は860床程度による運用を想定（建物は1,000床程度までの拡張を持たせ医療需要の変化等に柔軟に対応）
- ICU等の重症系病床を充実するほか、専門ニーズへの対応や人材育成のため、緩和ケア病床（20床）、児童・思春期病床を含む精神病床（38床）及び感染症病床（8床）を設置

### (2) 主な医療機能等

- 高度急性期医療の基幹病院を目指す。
- 救急医療における24時間365日断らない受入体制の確立
- 小児救命救急センターやPICUの整備による高度な成育医療の提供
- HIPRACと一体化した最先端のがん集学的治療の実践

#### ●感染症に強い施設の整備

周囲の医療機関と連携した上で、新興・再興感染症拡大時に**感染症対応と通常の医療を両立して継続できる施設整備**を目指します。

#### ●災害に強い施設の整備

近い将来、発生が予測される南海トラフ大地震や頻発する豪雨災害等、災害発生時においても**診療の継続性を確保するための施設整備**を行います。

#### ●患者満足度の向上

高度急性期患者等の心身の負担を軽減し、**安心して治療を受けることができる療養環境を整備**します。また、疾病の治療成績を向上させ、安全な医療サービスを提供することにより**患者満足度の向上**に繋がります。

### スタッフラウンジ（イメージ）



### ●職員満足度の向上

病院で働くスタッフが効率的に業務を行い、快適に過ごすことができる環境整備はスタッフの心身の負担軽減やモチベーションの向上に繋がるだけでなく、他職種間の活発な交流を通じて優れたチーム医療が醸成されることから、**職員にとって働きやすい職場環境を整備**します。

### ●実践的な対応能力を持った医療人材を育成するための施設の整備

医師、看護師、その他の医療スタッフの教育・研修機能を充実させるため、高度急性期を中心とした豊富で多彩な症例数を確保するとともに、より多くの医療スタッフが症例やデータを共有し、スキルアップにつなげられる諸室を整備します。また、医療スタッフのみならず事務スタッフの育成に必要な研修室等の整備も行います。



医局（イメージ）

外観(イメージ)



### (3) 新病院病床数

一般病床		813~954床
重症系病床		(99~117床)
E-ICU	(救命救急集中治療室)	(12床)
SCU	(脳卒中ケアユニット)	(6床)
E-HCU・CCU	(救命救急高度治療室及び心臓血管集中治療室)	(16床)
S-ICU	(外科系集中治療室)	(8床)
PICU	(小児集中治療室)	(6床)
HCU	(高度治療室)	(12床)
MFICU	(母体・胎児集中治療室)	(6床)
NICU	(新生児集中治療室)	(15床)
GCU	(新生児治療回復室)	(18床)
緩和ケア病床		20床
精神病床（児童・思春期病床を含む）		38床
感染症病床		8床
総病床数		859~1,000床

※重症系病床数の内訳は99床時を記載

### (4) 新病院の延べ面積

施設名	延べ面積	備考
新病院棟	約66千㎡	地上11階、免震構造
既存棟	約23千㎡	県立二葉の里病院（地上7階、免震構造）
立体駐車場	約9千㎡	地上6階、耐震構造
その他施設等	約1千㎡	院内保育所、駐車場渡り廊下、HIPRAC上空通路等
合計	約99千㎡	

### (5) 概算事業費

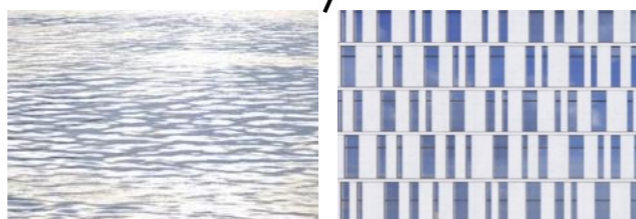
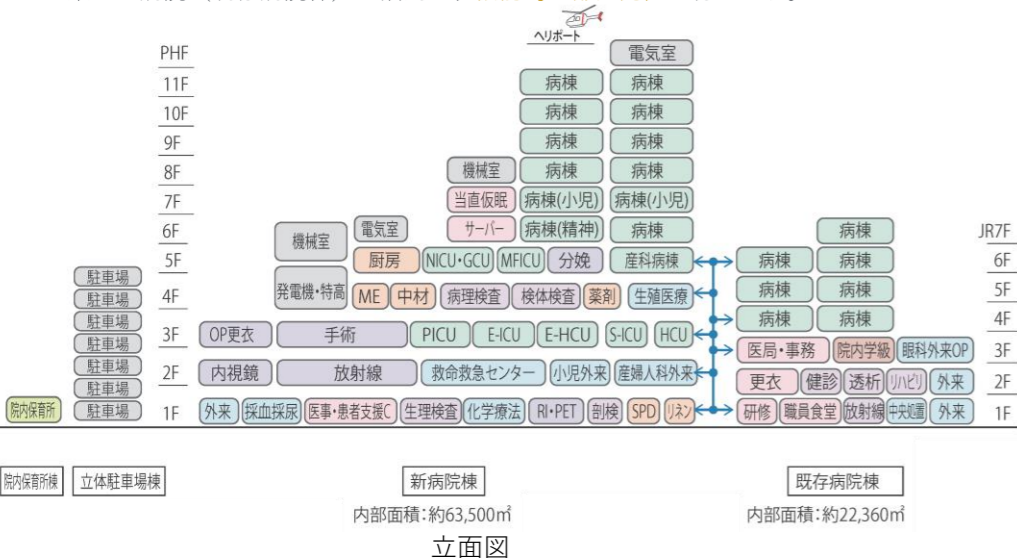
項目	事業費	備考
土地購入費用	約182億円	
JR広島病院資産譲渡	約58億円	
基本設計・実施設計	約20億円	
建築工事等	約840~970億円	新病院等整備費、既存病院棟改修費、駐車場整備費等
医療機器・システム	約200億円	既存医療機器を活用しつつ高度医療提供に必要な機器・システムを導入
県立広島病院建物解体費	約30億円	
合計	約1,330~1,460億円	※各項目における事業費は四捨五入していることから、合計と一致しません。



エントランスホール（イメージ）

### ●安全で質の高い高度急性期・専門医療を提供するために相応しい施設の整備

高度急性期医療や専門医療を提供するために必要な機能を整備し、効率的に医療が受けられるよう、二葉の里病院（既存病院棟）を活用し、**機能的な部門配置**を行います。



デザインコンセプト

大中小の縦長窓をランダム配置し、広島のみちを象徴する川や海の穏やかな「みなも」に、光がやさしくきらめく様子を表現。新病院が、広島の未来を照らす新たなシンボルとなることを目指す。

